

立正大学博物館年報

16

平成 29（2017）年度

立正大学博物館

序

立正大学博物館は、大学全体の学術的活動などを紹介する施設であるとともに、梵鐘をはじめとする仏教考古資料の専門館でもある。

大学全体に関わる展示として、第12回特別展「立正生の学び舎—熊谷キャンパスの半世紀—」を、2017年11月1日（水）から2018年1月31日（水）まで開催した。これは、熊谷キャンパスが創設50周年を迎えることを機に企画されたもので、ヴィジュアルな資料で熊谷キャンパスの歴史を振り返るものとなった。幸いカタログは好評で、熊谷50周年記念式典でも配布され、同窓生らの目を楽しませた。

一方、仏教考古資料に関わる展示としては、第12回企画展「板碑—立正大学の板碑研究」を、2017年10月2日（月）から同月28日（土）まで開催した。板碑については、すでに題目板碑に特化した展示を開いているが、立正大学博物館所蔵の板碑の全貌を紹介したのは、今回が初めてであった。とりわけ、立正大学における研究の歩みを、石田茂作・久保常晴・坂詰秀一という先学の業績と関連づけて紹介できたのは幸いであった。

このようなヴィジュアルな活動だけでなく、立正大学博物館では、調査研究・収集・保存修復・展示・教育普及など博物館としての基礎的な業務を肅々とこなしているが、その点については本書のなかで概要を報告しているので、参照願いたい。収集活動では、熊野 譲氏から山口県下関市防府市大崎江良の共同墓地出土の礫石経が寄贈されたことは、特筆に値する。貴重な資料をご寄贈いただいた熊野氏に、心より感謝いたすところである。今後、早急に調査研究を進め、なるべく早い時期にその成果を紹介する展示を企画することがわれわれの責務であると実感している。わずかずつではあるが、博物館として少しでもよくなるように、日々努力を重ねている歩みを、ご確認いただければ幸いである。

立正大学博物館

館長 時枝 務

目次

序 / 目次

I . 博物館の概要…………… 2

- (1) 組織と職員
- (2) 立正大学組織表
- (3) 立正大学博物館規定
- (4) 立正大学博物館細則
- (5) 施 設

II . 事業報告…………… 6

- (1) 開館日数・入館者数
- (2) 出 版
- (3) 資料活用
- (4) 展 示
- (5) 教育普及
- (6) 調査・研究

III . 受贈図書目録…………… 20

(1) 組織と職員

館長	時枝 務
専門職員	吉水美紗登
事務嘱託	浅見幹雄

第1号委員

時枝 務 (博物館長・文学部教授)

第2号委員

吉水美紗登 (専門職員・非常勤嘱託)

第3号委員

清水海隆 (社会福祉学部長・社会福祉学部教授)

川野良信（地球環境科学部長・地球環境科学部教授）

小畑二郎（経済研究所長・経済学部教授）

梅澤啓一 (社会福祉研究所長・社会福祉学部教授)

第5号委員

安田治樹 (博物館関係学識経験者・仏教学部教授)

第6号委員

石山秀和（文化史関係学識経験者・文学部准教授）

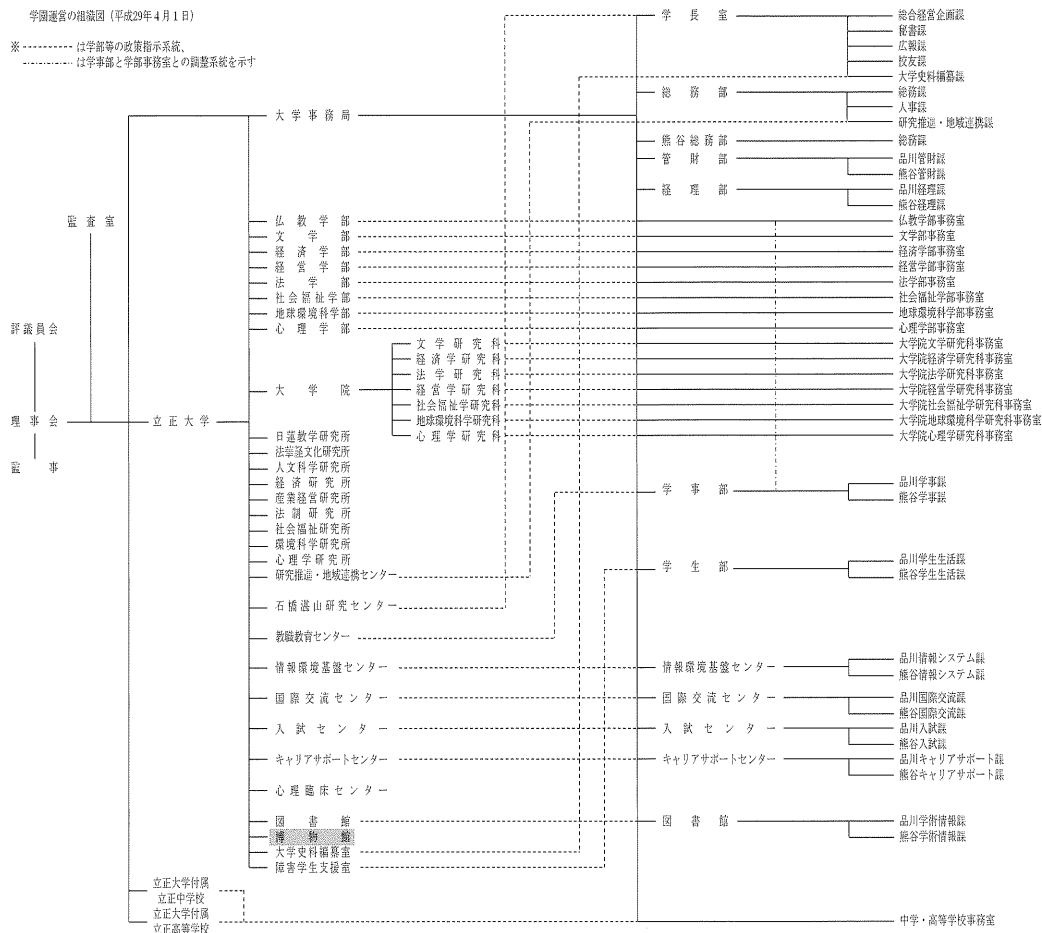
第7号委員

島津 弘(自然誌関係学識経験者・地球環境科学部教授)

学園運営の組織図（平成29年4月1日）

※ ----- は学部等の政策指示系統。

-----は学事部等の取組指示系統、
-----は学事部と学部事務室との調整系統を示す



(3) 立正大学博物館規定

(趣旨)

第1条 立正大学学則第9条の規定に基づき、熊谷キャンパスに「立正大学博物館」(以下「博物館」という。)を置く。

(目的)

第2条 博物館は歴史・宗教・芸術・民俗・産業・自然誌に関する学術的資料(以下「資料等」という。)を収集・保管し、これを組織的に展示し、広く社会に公開するとともに、これらの調査研究を行うことによって大学における教育・研究の発展に寄与することを目的とする。

(事業)

第3条 博物館は前条に規定する目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 資料等の収集、整理および保管
- (2) 資料等の展示および公開
- (3) 調査研究活動
- (4) 調査研究成果の発表および出版
- (5) 本学における博物館関係科目、その他関連授業科目の教育活動への協力
- (6) 講演会、講習会および特別展示会の開催
- (7) その他必要な事業

(職員)

第4条 博物館に次の職員を置く。

- (1) 館長
- (2) 専門職員

(館長)

第5条 博物館に館長を置く。

- 2 館長は博物館を代表し、博物館の業務を統括する。
- 3 館長は全学協議会に諮り、本学専任教職員より学長が任命する。
- 4 館長の任期は3年とし、再任を妨げない。
- 5 館長が欠けたときは補充しなければならない。この場合において、その任期は前任者の残任期間とする。

(専門職員)

第6条 専門職員は第3条に定める事業に従事するとともに、これに関連する業務を行う。

- 2 専門職員は館長の推薦を受け、学長が任命する。
- 3 専門職員は博物館学芸員の資格を有するものとし、該当者がいない場合は博物館学芸員に相当するものとする。
- 4 専門職員の任期は3年とし、再任を妨げない。

(運営委員会)

第7条 博物館の管理運営に必要な事項を審議するため、博物館運営委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(委員会・構成)

第8条 委員会は、次の者をもって構成し、学長が委嘱する。

- (1) 館長
 - (2) 専門職員
 - (3) 学部長から2名
 - (4) 研究所長から2名
 - (5) 博物館学芸員関係学識経験者から1名
 - (6) 考古学および文化史関係学識経験者から1名
 - (7) 自然誌関係学識経験者から1名
- 2 館長の推薦により、前項に定める委員のほか、学識経験者若干名を加えることができる。なお、学識経験者委員の委嘱は学長が行う。
- 3 委員会が必要と認めたときは、委員以外の者に出席を求め、意見を聴くことができる。

見を聴くことができる。

(委員の任期)

第9条 前条第1項第3号乃至第6号および第2項の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

2 任期中に欠員が生じた場合は、委員を補充し、任期は前任者の残任期間とする。

(委員会の運営)

第10条 委員会は、館長が招集し、議長となる。

2 委員会は、委員の過半数の出席をもって成立し、議事は出席委員の過半数の同意をもって決する。

(委員会の審議事項)

第11条 委員会は、以下の事項について審議する。

- (1) 資料等の収集、整理、保管、展示および公開に関する事項
- (2) 博物館の管理運営に関する事項
- (3) 調査研究活動ならびにその成果の発表および出版に関する事項
- (4) 博物館関係科目、その他関連授業科目の教育活動への協力に関する事項
- (5) 博物館の予算・決算に関する事項
- (6) その他必要な事業に関する事項

(細則)

第12条 この規程に定めるもののほか、管理運営上必要な事項は、立正大学博物館細則によるものとする。

(規程の改廃)

第13条 本規程の改廃は委員会および全学協議会の議を経て、学長が決定する。

2 前項に規定するもののほか、この規程の改廃の最終決定は、立正大学学園規約類の制定に関する規程第6条の規定による。

附 則

この規程は平成14年4月1日から施行する。

平成28年2月24日改正、平成28年4月1日施行

(4) 立正大学博物館細則

(趣旨)

第1条 この細則は立正大学博物館規程第12条の規定に基づき、同規程の施行について必要な事項を定めるものとする。

(開館日)

第2条 立正大学博物館（以下「博物館」という。）の開館日は原則として立正大学学則第31条に定める休業日および火曜日を除く日とする。

(開館時間)

第3条 博物館の開館時間は、午前10時から午後4時までとする。

(入館手続)

第4条 博物館に入館する者は所定の手続をとらなければならない。

2 館長は博物館における教育および研究活動に支障があると認める場合は、入館を許可しないことがある。

(入館料)

第5条 博物館の入館料は原則として無料とする。

(入館者の義務)

第6条 入館者は博物館の施設・資料等を毀損し、または滅失したときは、直ちに館長に届け出て、その指示に従わなければならない。
2 入館者は前項の規定にある損害に対し損害賠償の義務を負わなければならない。ただし、事情によりこれを免除または軽減することができる。

(資料等の利用)

第7条 博物館内において撮影、実測、特殊観察、複製製作等の目的で資料等の利用を希望する者は、館内利用許可申請書（様式1）を館長に提出し、その許可を受けなければならない。

2 資料の所蔵者および寄託者が学外にある場合は、当該資料の利用を希望する者は事前に所蔵者または寄託者の承認を受け、それを証明する書類を館内利用許可申請書に添付しなければならない。

3 利用を許可された者は次に掲げる事項を遵守しなければならない。

- (1) 利用に際しては博物館の専門職員の指示に従うこと。
- (2) 利用による成果を刊行物、映画フィルム、ビデオテープ等に発表したときは、本博物館の名称およびその所蔵、または保管である旨を明記すること。
- (3) 利用により生じた著作物等は利用許可申請書に記載の目的以外には使用しないこと。
- (4) 館長は、第1項の利用許可申請書の提出があったときは、審査のうえ館内利用許可書（様式2）を交付する。ただし、重要文化財およびこれに準ずる資料等については、立正大学博物館運営委員会（以下「委員会」という。）の議を経なければならない。なお、館長は管理上支障があると判断した場合は、許可を取り消すことができる。

(5) 第1項による利用許可を受けた者が、当該資料等を毀損した場合は、損害賠償の義務を負わなければならない。

(資料等の利用料金)

第8条 前条第3項により許可を受けた者は、別に定める利用料金を速やかに経理部に納入しなければならない。

2 館長は、前項の定めにかかわらず次の各号のいずれかに該当する場合は、利用料金を全額免除することができる。

- (1) 各種教育機関や国または地方公共団体および公益法人が行う教育、学術および文化等に関する事業
- (2) 博物館法（昭和26年法律第285号）に規定する博物館等の行う事業
- (3) 学術研究

(4) 前号のほか、館長が全額免除すべき特別の理由があると認めたとき。

3 前項の定めにより利用料金を全額免除された者は、利用により生じた著作物1部以上を無償で博物館に納入しなければならない。ただし、館長が認めたときはこの限りでない。

(資料等の貸出)

第9条 資料等の貸出を受けようとする者は館外貸出許可申請書（様式3）を館長に提出し、その許可を受けなければならない。

2 館長は前項の館外貸出許可申請書の提出があったときは、審査のうえ館外貸出許可書（様式4）を交付する。ただし、重要文化財およびこれに準ずる資料等については、委員会の議を経て決定しなければならない。

3 館長は管理上支障があると認められる場合は、前項の許可を取り消すことができる。

4 第1項による許可を受けた者は、貸出期間中に当該資料等を毀損または滅失した場合は、損害賠償の義務を負わなければならない。

(資料等の貸出料金)

第10条 前条第2項による許可を受けた者は、別に定める料金を速やかに経理部に納入するとともに、貸出期間中および貸出に伴うすべての経費を負担するものとする。

2 前項の定めにかかわらず、第8条第2項第1号、第2号および第4号のいずれかに該当する場合は料金を全額免除する。

3 前項の定めにより貸出利用料金を全額免除された者は、利用により生じた著作物を1部以上、博物館に寄贈しなければならない。ただし、館長が特に認めたときはこの限りでない。

(寄託)

第11条 資料等を寄贈・寄託しようとする者は、その品目、点数、期間等を寄贈申請書（様式5）寄託申込書（様式6）に記入のうえ、館長に提出するものとする。

2 館長は前項に定める寄贈・寄託の申出があった時は、委員会の審議に附し、受入の承認がなされたものについて、学長に意見書を提出しなければならない。

3 館長は寄贈・寄託を受けた時は、寄贈・寄託者に対して当該資料の受領証（様式7）・受託証（様式8）を交付するものとする。

4 館長は寄託を受けた資料等について十分な注意をもって保管しなければならない。

(細則の改廃)

第12条 本細則の改廃は、委員会および全学協議会の議を経るものとする。

附 則

1 この細則に定めのない事項については、館長がその都度、委員会に諮り処理する。

2 この細則は平成14年4月1日から施行する。この細則は平成15年4月1日から施行する。

(申請書様式一覧)

様式1：館内利用許可申請書

様式2：館内利用許可書

様式3：館外貸出許可申請書

様式4：館外貸出許可書

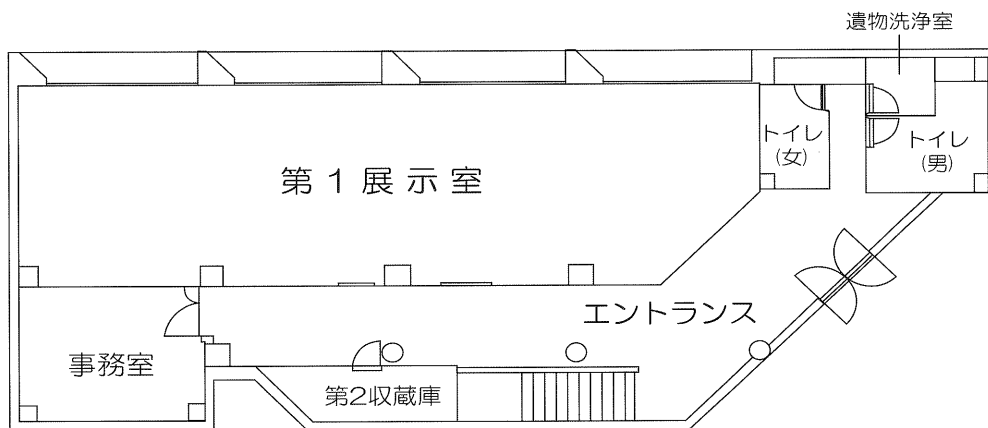
様式5：博物館資料寄贈申請書

様式6：博物館資料寄託申請書

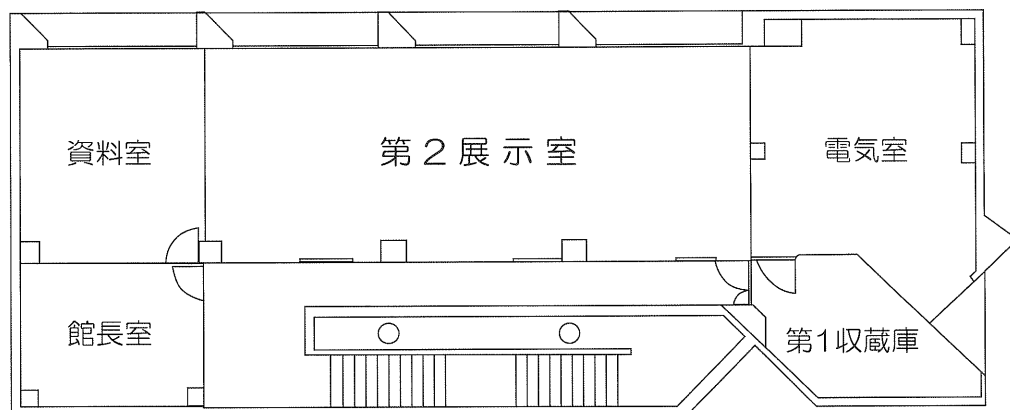
様式7：博物館資料受領証

様式8：博物館資料受託証

様式9：博物館資料借用書



1階 平面図



2階 平面図

- 建物
所在地・・・埼玉県熊谷市万吉 1700
建築面積・・・376.8㎡
構造・・・鉄筋コンクリート造 2階建

●各室面積一覧

(1階)

第1展示室	・・・	93.88㎡
事務室	・・・	17.10㎡
第2収蔵庫	・・・	3.22㎡
トイレ	・・・	11.01㎡
遺物洗浄室	・・・	2.26㎡
エントランス	・・・	45.64㎡

(2階)

第2展示室	・・・	71.22㎡
館長室	・・・	16.98㎡
資料室	・・・	23.89㎡
第1収蔵庫	・・・	12.30㎡
電気室	・・・	39.00㎡

●各室仕様

(第1展示室・事務室)

床	・・・	タイルカーペット敷
壁	・・・	ビニールクロス貼り
天井	・・・	ミネラートン

(第2展示室)

床	・・・	タイルカーペット敷
壁	・・・	ビニールクロス貼り
天井	・・・	ミネラートン

(館長室・資料室)

床	・・・	タイルカーペット敷
壁	・・・	ビニールクロス貼り
天井	・・・	ジブトーン

●電気設備

受電設備	・・・	6.6KV
変圧器設備	・・・	電灯ー100KVA 動力ー80KVA
照明設備	・・・	展示室ーハロゲンランプ使用 館長室・事務室・資料室ー蛍光灯使用

●防犯・防災設備

防犯設備	・・・	各室熱センサー取付、非常通報設備
ITV設備	・・・	CCDカメラ4台、展示室等監視
自動火災報知設備	・・・	P型1級5回線
消火設備	・・・	粉末消火器9台

●空調設備

空調機	・・・	空冷式、パッケージエアコン(個別)
-----	-----	-------------------

●給排水設備

給水設備	・・・	市水道使用
給湯設備	・・・	貯湯式電気湯沸器

II. 事業報告

(1) 開館日数・入館者数

平成 29 年 4 月 1 日（土）から平成 30 年 3 月 31 日（土）の間、延 231 日開館し、総来館者数は 1023 名であった。内訳は、一般 650 名、本学学生 148 名、本学教職員 66 名である。

また、以上の期間に熊谷キャンパスにおいてオープンキャンパスが 5 回行われた。その際の来館者数は 159 名である。

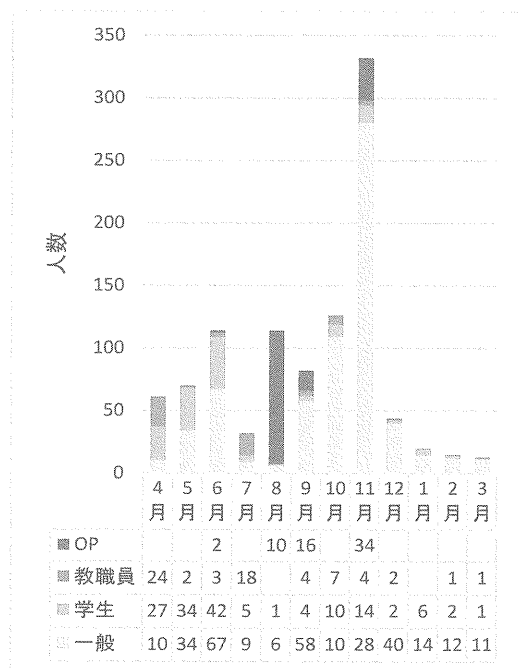


表 1 平成 29 年度月別入館者数

(2) 出版

本年度は、以下の出版物を刊行した。

- ・『立正大学博物館年報』15 号
- ・館報 万吉だより 25 号・26 号
- ・第 12 回企画展図録『板碑』
- ・第 12 回特別展図録『立正生の学び舎－熊谷キャンパスの半世紀－』
- ・博物館クリアファイル

(3) 資料活用

当館所蔵の資料を以下の博物館等に貸出を行った。

貸出資料：称名寺 B 貝塚出土銚頭写真資料

貸出機関：大阪府立弥生文化博物館

貸出期間：平成 29 年 9 月 4 日（月）～12 月 3 日（日）

利用目的：大阪府立弥生文化博物館主催の秋季特別展展示図録掲載のため。

貸出資料：芝公園古墳出土人物埴輪、熊ノ郷遺跡出土石器、殿ヶ谷戸遺跡出土石器

貸出機関：武蔵野文化協会

貸出期間：平成 29 年 11 月 15 日（水）～12 月 15 日（金）

利用目的：武蔵野文化協会創立 100 周年記念展“武蔵野”研究 100 年－鳥居龍蔵と井上清－において展示するため。

(4) 展 示

1. 常設展示

- 第1展示室(1F) -

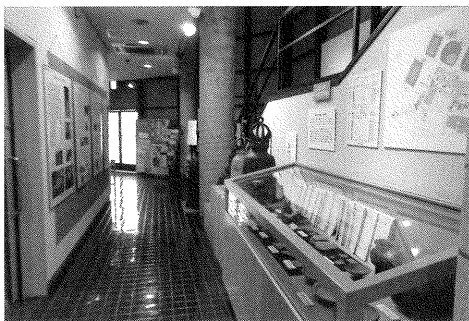
眞鍋孝志氏（日本古鐘研究会会長）より寄贈されたアジア諸地域の梵音具を中心とする撫石庵コレクションまた、立正大学考古学研究室が1958～1980年にかけて実施した「古代窯業の考古学的研究」によって発掘された資料を中心に展示している。これら資料は古代窯業生産の実態、土器の編年、瓦搏の供給問題についての貴重な資料として周知されている。

また、本学熊谷校地は旧石器時代から近世に至るさまざまな時代の遺跡が埋蔵されており、当館では過去40年間の発掘調査で出土した熊谷校地遺跡出土資料を展示している。

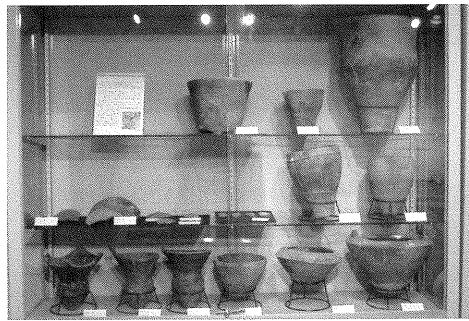
- 第2展示室(2F) -

吉田格コレクション、樺太出土資料、ネパール・ティラウラコット出土資料を展示している。

吉田格コレクションは、本学専門部地歴科を卒業された吉田格氏寄贈のコレクションである。吉田氏は縄文文化研究者として著名であり、縄文時代早期の花輪台式土器、後期の称名寺式土器は吉田氏によって設定された型式標準資料として学界に周知されている。コレクションの中でも称名寺貝塚出土の土器、石器、骨角器および骨角器原料（鹿角）は縄文文化の研究上、きわめて重要な資料である。



エントランス展示状況



第2展示室・東側展示状況



第1展示室展示状況



第2展示室・西側展示状況

2. 企画展示

第12回企画展

「板碑－立正大学の板碑研究－」

◆期間:平成29年10月2日(月)～10月28日(土)

◆内容:本展示では、立正大学の板碑研究について、その草分け的な存在である石田茂作博士と久保常晴博士の研究について紹介するとともに、当館所蔵の久保常晴博士の板碑コレクションを紹介した。

3. 特別展示

第12回特別展

「立正生の学び舎－熊谷キャンパスの半世紀－」

◆期間

平成29年11月1日(水)～平成30年1月31日(水)

◆内容:本展示では、立正大学熊谷キャンパスの沿革と広がり写真を写真資料・図面などをもとに紹介した。また、キャンパス建設に伴う発掘調査で出土した熊谷校地内遺跡出土資料を展示した。



第12回特別展ポスター

4. 品川キャンパス展示

平成28年に引き続き、平成29年度も品川キャンパス9号館エントランスにて、博物館収蔵資料の紹介や、企画展・特別展の移動展を行った。

「人びとのくらしと石の道具」展

◆期間:平成29年4月1日(土)～8月31日(木)

◆内容:本展示では、博物館所蔵資料紹介として石器を取り上げた。

「称名寺貝塚」展

◆期間:平成29年9月6日(水)～10月31日(火)

◆内容:本展示では、博物館収蔵資料紹介として吉田格コレクションを取りあげた。縄文時代の貝塚として著名な称名寺貝塚出土資料を紹介した。

第12回企画展(移動展)

「板碑－立正大学の板碑研究－」

◆期間

平成29年11月8日(水)～平成30年2月7日(水)

第12回特別展(移動展)

「立正生の学び舎－熊谷キャンパスの半世紀－」

◆期間:平成30年2月8日(木)～4月30日(月)



「称名寺貝塚」展の様子

(5) 教育普及

1. 博物館館務実習

平成 29 年度の博物館学芸員課程の館務実習を、熊谷キャンパス内にて延 7 日間行なった。

実習生は、文学部史学科 2 名、文学部哲学科 2 名、文学部文学科 1 名、仏教学部仏教学科 1 名、心理学部対人・社会心理学科 1 名の計 7 名である。



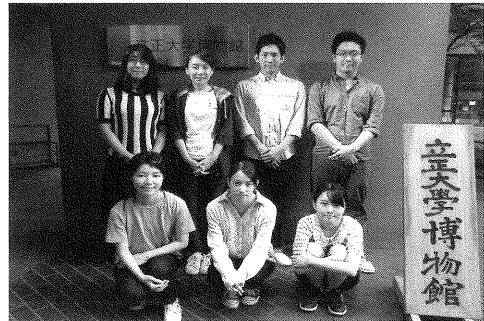
資料の取扱いと梱包実習の様子

◆ 8 月 5 日 (土)

担当：井上尚明先生 (立正大学非常勤講師)
資料の取り扱いと梱包について学んだ。実際に梱包材を作り、収蔵資料を梱包し、開梱する一連の作業を行った。

◆ 8 月 7 日 (月)

担当：田嶋和久先生 (文学部社会学科准教授)
日本刀の概要について学び、模造刀を使用し、刀剣の取り扱いと手入れの実習を行った。



平成 29 年度 館務実習生

◆ 8 月 8 日 (火)

担当：石山秀和先生 (文学部史学科准教授)
古文書の取り扱い方や、調査方法を学び、実際に古文書と和本の調査カードを作成した。

◆ 8 月 9 日 (水) ～ 11 日 (金)

担当：池田奈緒子氏 (当館非常勤学芸員)
品川キャンパス展の製作

◆ 8 月 12 日 (土)

担当：北沢俊幸先生 (地球環境科学部環境システム科 講師)
自然誌に関する実習を行なった。実際に熊谷キャンパス内の建造物に使用されている石材の観察を行なった。

2. 土器焼成

土器焼きは例年、文学部史学科の「考古学実習 6」(4 年生対象) の一環で行われている。今年度も、平成 29 年 11 月 3 日(金)・4 日(土) の 2 日間、博物館が協力し、熊谷キャンパス敷地内において行われた。

参加者は、考古学専攻 6 名で講師の竹花宏之先生の指導の下、野焼きで土器を焼成した。



完成した土器と考古学専攻生

(6) 調査・研究

立正大学博物館所蔵の称名寺貝塚出土骨角器 (1)

(横浜市歴史博物館 学芸員)

高橋 健

はじめに

神奈川県横浜市金沢区に位置する称名寺貝塚^{しょうみょうじ}は、縄文時代後期初頭の称名寺式土器の標識遺跡であり、大量のイルカ骨と豊富な骨角製漁具が出土したことでも知られる。称名寺貝塚は、直径 150 m ほどの範囲に縄文時代後期の各時期の貝塚が形成されていたが（横浜市歴史博物館 2016）、立正大学博物館所蔵（吉田格コレクション）の称名寺貝塚出土資料は、昭和 26 年・32 年（1951 年・1957 年）に吉田格を担当者として発掘調査が行われた A 貝塚・B 貝塚からの出土遺物である。縄文時代後期初頭の関東地方にあって、質量ともに類をみない重要な資料だといえる。

1. 資料（図 2～4、写真 1・2）

今回報告する資料は、立正大学博物館が所蔵する称名寺貝塚出土の骨角器のうち、銚頭^{もりかしら}、釣針、鉤状製品である。これらの資料については発掘調査報告（吉田 1960）のほか、立正大学から刊行された吉田格コレクションのカタログに掲載されている（立正大学文学部考古学研究室編 1990）。先行文献との対応関係については、表 1 に示した。対象とした器種については全てを図化するように心がけたが、報告済資料の一部は確認できなかった。注記を欠く資料も含まれているが、骨角器に関するかぎり A 貝塚出土資料（吉田 1960：第八図 1～6）は含まれていないため、基本的に全て B 貝塚から出土したものと考えておきたい（註 1）。

称名寺 B 貝塚は、金沢区寺前に位置し、1951 年・57 年の二回にわたって調査された。貝層は第一次調査では二枚に区分されていたが、第二次調査では区別できず、遺物にも差がみられないとしてまとめて報告されている。B 貝塚から出土した土器は、「称名寺式第二群」として

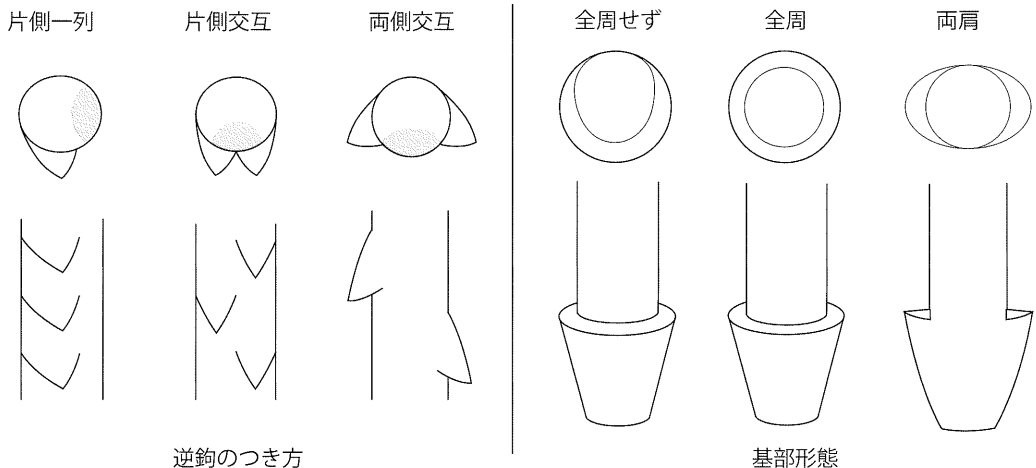


図 1 銚頭の模式図

番号	器種	報告1960	図録1990	注記	長 (mm)	重 (g)	状態	素材
1	銚頭 (大型)	第8図 8	図版23-1-2	称B	117	26.3	頭部欠	鹿角
2	銚頭 (大型)	—	図版25-1-1	—	95	18.1	頭部欠	鹿角
3	銚頭 (大型)	第8図 9	図版23-1-1	称B	117	28.1	頭部欠	鹿角
4	銚頭 (大型)	—	図版23-2-1	称B	85	19.8	頭部欠	鹿角
5	銚頭 (大型)	第8図10	図版24-1-1	称B	106	23.9	頭部欠	鹿角
6	銚頭 (大型)	第8図 7	図版23-1-4	称B	134	29.0	頭部欠	鹿角
7	銚頭 (大型) ?	—	—	称B	97	11.7	頭部破片	鹿角
8	銚頭 (大型) ?	第8図14	図版23-2-2	称B	76	7.9	頭部破片	鹿角
9	銚頭 (大型) ?	—	図版24-2-4	称B	43	4.1	頭部破片	鹿角
10	銚頭 (大型) ?	—	図版24-3-2	称B	48	5.8	逆鉤破片	鹿角
11	銚頭 (大型)	—	図版24-2-2	称B	62	11.5	基部破片	鹿角
12	銚頭 (大型)	—	図版24-2-1	称B	57	11.7	基部破片	鹿角
13	銚頭 (大型)	—	図版24-2-4	称B	73	19.6	基部破片	鹿角
14	銚頭 (小型)	第8図25	図版26-1-3	称B	53	1.5	完形	鹿角
15	銚頭 (小型)	第8図23	図版23-3-1	称B	50	1.9	完形	不明
16	銚頭 (小型)	第8図26	図版26-1-4	称B	54	2.0	頭部欠	シカ中手中足骨
17	銚頭 (小型)	第8図28	図版26-1-9	称B	53	1.4	完形	魚骨
18	銚頭 (小型)	第8図22	図版23-3-2	称B	66	1.4	完形	鳥骨
19	釣針	第8図43	図版25-2-2	—	31	0.9	軸部	鹿角 ?
20	釣針	第8図42	図版25-2-3	称	40	1.8	軸部	鹿角
21	釣針	第8図41	図版23-3-5	称B	46	2.2	軸部	鹿角
22	釣針	第8図40	図版25-2-4	—	43	3.4	軸部	鹿角
23	釣針	第8図44	図版23-3-6	称B	36	3.1	針先	鹿角
24	釣針	第8図45	—	称B	34	1.3	針先	鹿角
25	鉤状製品 (軸)	第8図39	図版23-2-4	—	101	(13.2)	先端欠	イルカ肋骨
26	鉤状製品 (先)	第8図39	図版23-2-5	—	33	(5.0)	先端欠	イノシシ犬歯

※図録 1990 の枝番は「図版 1 の 2 列目の左から 3 番目」を「図版 1-2-3」のように記した。

表 1 称名寺貝塚出土資料 属性表

報告され、後に称名寺Ⅱ式とされた土器型式の標識資料である。土器片や骨角器は「第一貝層」の上部から多量に出土したという。したがって今回報告する骨角器は、称名寺式の新段階に伴うものだと考えられる。

2. 銚頭 (1 ~ 18)

銚頭は、獲物に刺さった後に頭部が柄から離れ、器体に結びつけた縄で獲物を確保する刺突具であり、特に水域で大型の獲物に対して有効である。称名寺貝塚出土の銚頭は、1960 年の報告では大型銚・中型銚・小型銚に分類されていたが、「中型銚」とされた資料は離頭機能をもたない逆鉤付ヤス^{かえし}だと考え、今回は

報告の対象に含めない。銚頭の分類は、抵抗機能や柄への装着方法に注目して行われることが多い。称名寺貝塚出土の銚頭は、抵抗機能では鉤引式 (逆鉤で引っかける)、柄への装着方法では雄形 (銚頭本体にソケットをもたない) に分類される。

称名寺 B 貝塚出土の銚頭の特徴として、筆者は a. サイズ、b. 逆鉤の形とつき方、c. 基部の形態、の三点を挙げたことがある (高橋 2016)。具体的には下記の通りである。

a. 長さ 15cm を超えるような大型品と、7cm 未満の小型品が作り分けられる。

b. 逆鉤の形が三角形であり、片側交互につけられるものが多い。

c. 基部は断面円形で端部に平坦面を作り出

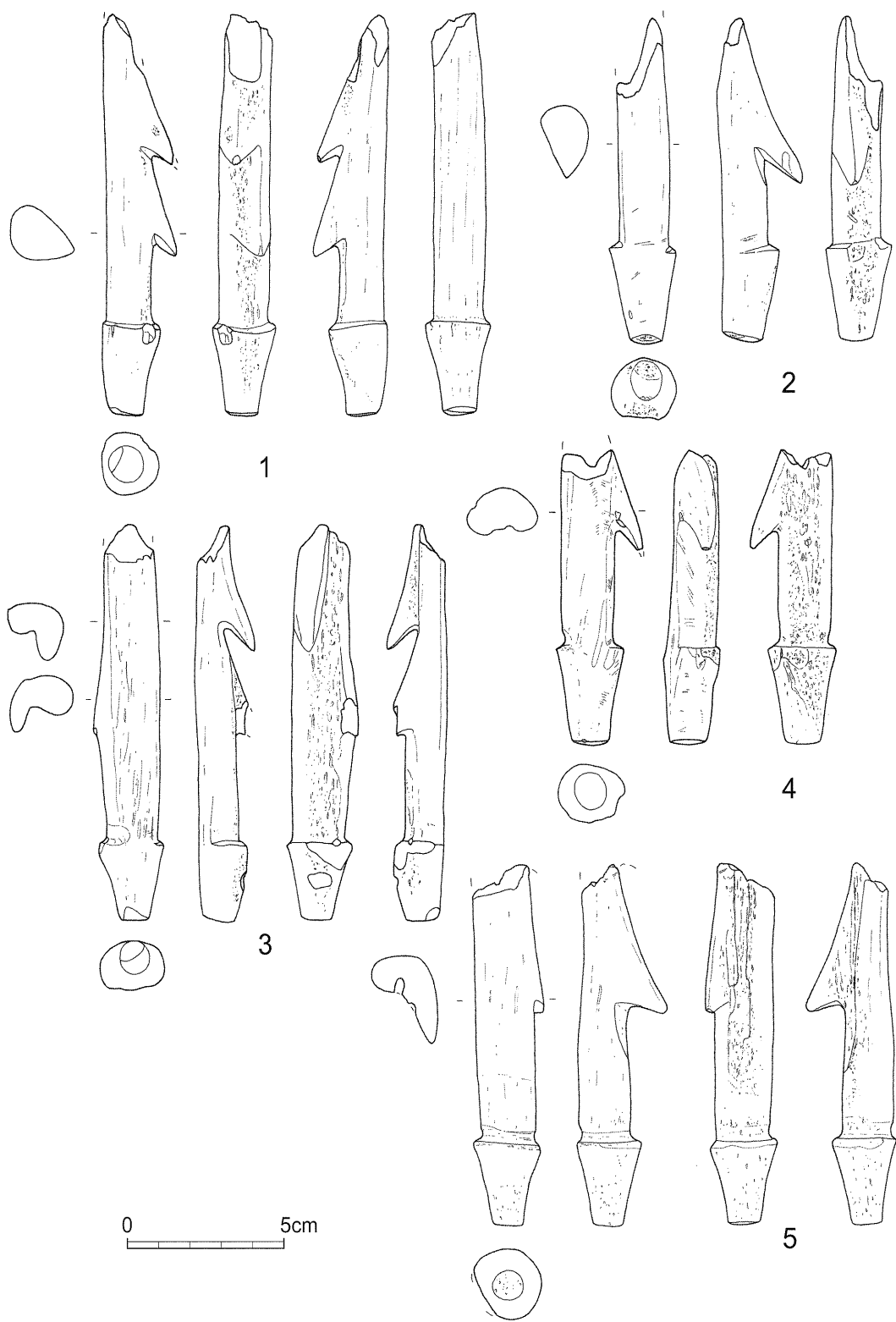


図2 称名寺貝塚出土資料 (1)

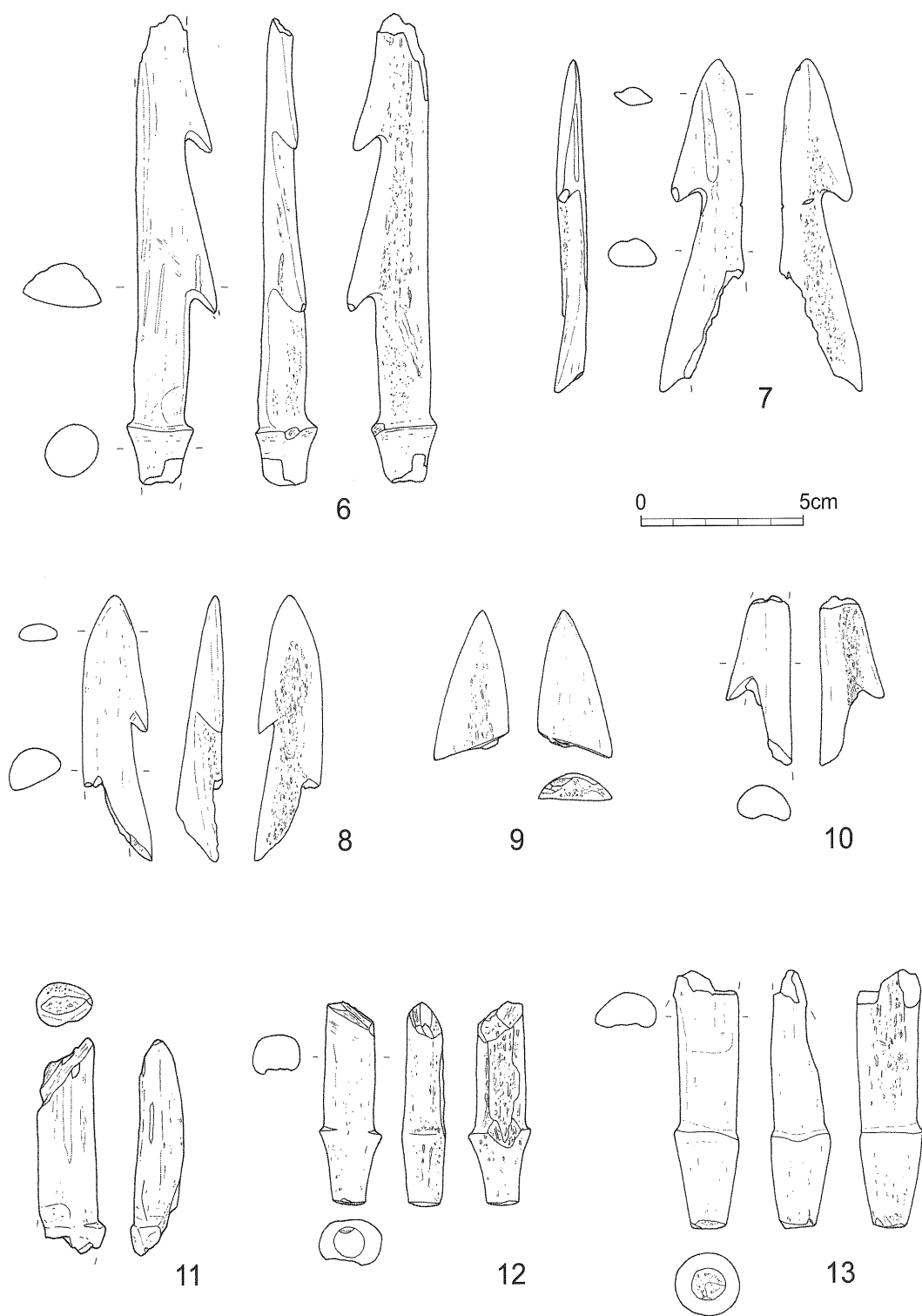
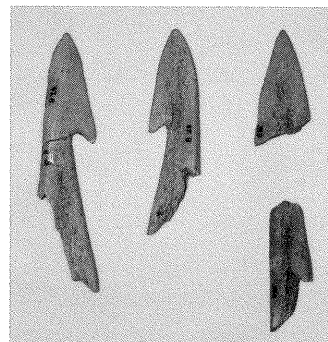
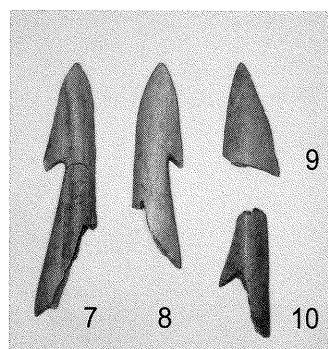
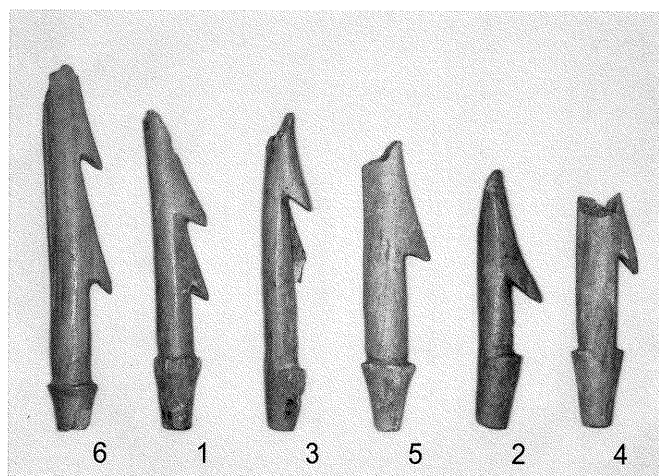


図3 称名寺貝塚出土資料(2)



S=約1/3

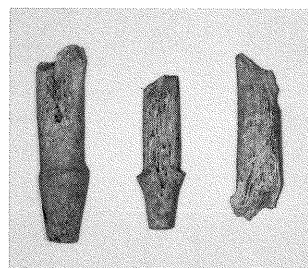
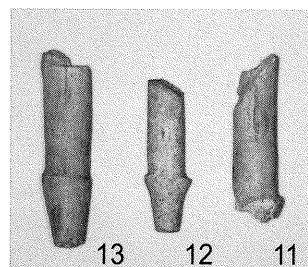


写真 1 称名寺貝塚出土資料 大型鋇頭

しており、逆円錐台状を呈する。

逆鉤のつき方と基部の形態についての分類基準を確認しておこう（図1）。鉤引式銚頭の逆鉤のつき方は片側／両側に二分されることが多いが、この時期の銚頭を扱うには不十分である。後期初頭に特徴的な「片側交互」のタイプが出現するためである。「片側一列」も併存するが、後期前葉にかけて「両側交互」に変化する。基部に設けられた銚縄を装着するための索肩は明瞭な段をなしており、器体の三方をめぐり全周しないタイプと、器体を全周するタイプが存在する。

大型銚頭の完形品はないが、逆鉤から基部までを残すものが6点ある（1～6）。1は片側交互の逆鉤を2段残す例である。逆鉤は鹿角の海面質側につく。素材の中心の海綿質を避けてなるべく大きな逆鉤を作るための形態だと考えられる。3も片側交互の逆鉤が2段残るが、下側の逆鉤は破損している。2は逆鉤を1段のみ残す資料で、上端の割れ口が逆鉤の跡だとすれば、片側交互だったと推測できる。6は2段の逆鉤が残る片側一列の確実な例である。4・5は逆鉤を1段のみ残す資料だが、4は逆鉤と海面質の関係から、5は上端の割れ口から、いずれも片側一列だった可能性が高い。

基部形態をみると、1・5・6は肩が全周するのに対し、2～4は3方をめぐり全周しない。破損している6以外の基部は、端部に平坦面を作り出した逆円錐台を呈する。この部分の仕上げは非常に丁寧であり、離頭機能に関わる重要な部分であったことをうかがわせる。対応する形のソケットをもつ中柄は見つからないが、木製だったのかもしれない。1～4・6は、肩部の逆鉤と同じ側に、銚縄を通すための小さな袢りを設けている。

逆鉤の破片は4点ある（7～10）。基部を欠く資料の場合、銚頭であるかどうかを確実に判断することはできないが、サイズが大型の

資料をここで報告することにしたい。残存している逆鉤の数は1～2段で、2段の例はいずれも片側一列である（7・8）。先端を残すものが3点あり（7～9）、いずれも頭部は扁平になり尖る。

基部の破片は3点ある（11～13）。11は軸から基部にかけての資料であるが、基部の下端は欠損している。軸を斜めに擦り切って切断した痕跡を残す。12も同様に軸を斜めに切断した資料である。これらの再加工の意図は不明である。12は腹面側が破損しているため、肩部の袢りの有無はわからないが、背面側には索肩がめぐっていない。13は浅い索肩が全周しており、袢りは入らない。12・13ともに端部に平坦面を作りだしている。

小型銚頭は5点ある（14～18）。いずれも小さいながらも丁寧に作られ、銚頭としての機能をきちんと備えている。ここでは繫留機能、すなわち銚縄を結び付けるための肩や袢りなどの加工をもつ資料を「銚頭」として分類した。近似したサイズでそのような加工をもたない「逆鉤付ヤス」も存在するが、今回は報告の対象外とした。素材は鹿角、シカ中手中足骨、魚骨、鳥骨など多様である。逆鉤のつき方は両側交互（14）と片側一列（15・17・18）のものがある。16は素材の形態に制約された両側交互だと考えたが、片側交互とみることも可能かもしれない。基部形態は、両側に肩が張るもの（14）、浅い肩が全周しないもの（15）、袢りを入れるもの（16・18）、片側に肩が突出するもの（17）と、バリエーションに富んでいる。

3. 釣針（19～24）

称名寺貝塚出土の釣針は、軸部と針先部それぞれの破片がある。完形品は見つからないが、鹿角製の単式釣針だったと考えられる。軸と針先が内側に湾曲した丸みが強い形状が特徴である。19～22は軸部破片で、全長は3cm～

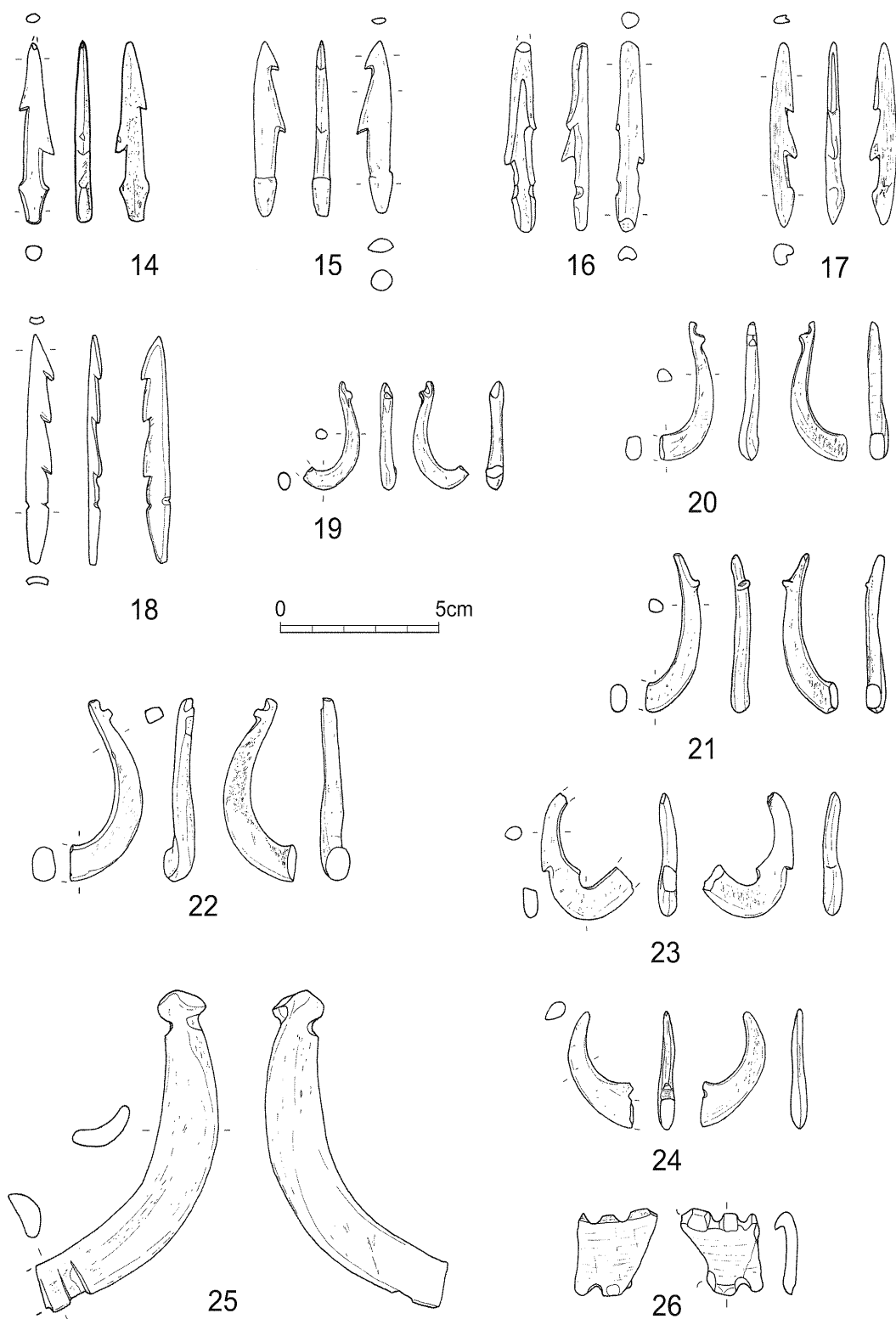


図4 称名寺貝塚出土資料 (3)

4cm 台前半である。渡辺（1971）による釣針サイズの分類に当てはめると、中形ということになる。軸頭部の外側に挟りを二ヶ所入れて、突起を作り出している。正面観（背面観）はゆるやかにカーブしているが、これは素材の形状を反映したものである。針先については、両アグ（23）と内アグ（24）の例があるが、いずれもアグの切り込みは浅い。これらの釣針の製作技法、特に素材取りについては、金子（1968）による研究成果がある。22の軸部と針先部（割れ口の近く）で海面質の方向が異なっていること、表面側にきわめて浅いへこみがあることなどから、鹿角の分岐部を利用した板状素材から逆位に釣針を作る製作法が復元されている。

関東地方では縄文時代後期になるとこのような曲軸の釣針の類例が増加する。称名寺貝塚の釣針はその初期段階の資料ということになる。篠遠によるハワイの釣針の分類を参照すると、Rotating hookに相当する（Shinoto 1991）。篠遠による定義は、針先の延長が軸と交差するというものであるが（図5）、称名寺貝塚例は、丸みの強い軸（22）と、内側に強く湾曲した針先（23）により、この定義を満たしていたと考えられる。通常のJ字形の釣針（Jabbing hook）とは、釣糸の引っ張りに対する釣針の運動が異なるとされている。

4. 鉤状製品（25・26）

称名寺貝塚から出土した大型鉤状製品は、その特異な出土状況でも注目された。報告によれば「猪牙製の鉤先及びイルカの肋骨で作られた軸が並んで発見されたものであって、イルカの頭骨の中に軸の一部が入っていたものである」という（吉田1960）。

軸は長さ11cm、鉤先は長さ4.6cmだったと報告されている。現状では軸の結合部分と鉤先の先端部分は欠損して復元されており、現

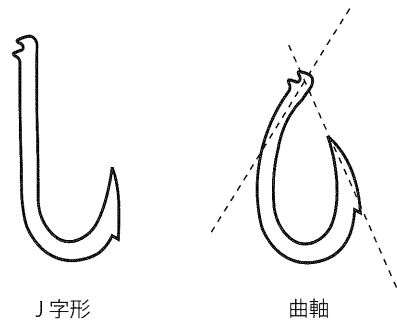


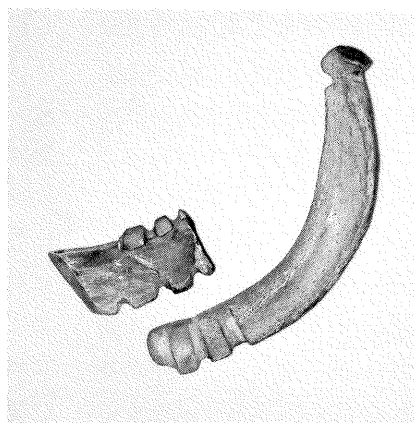
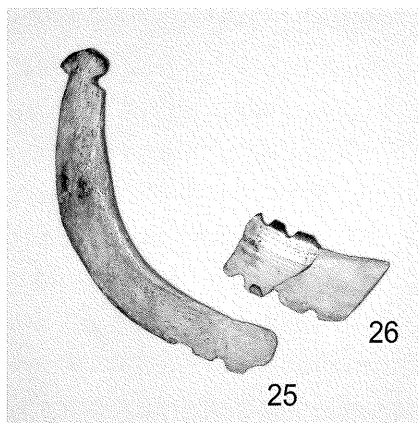
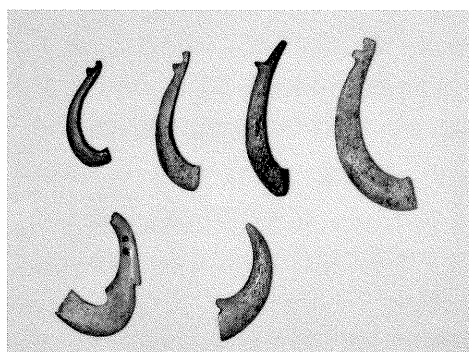
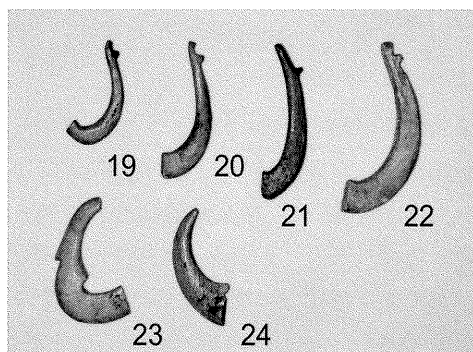
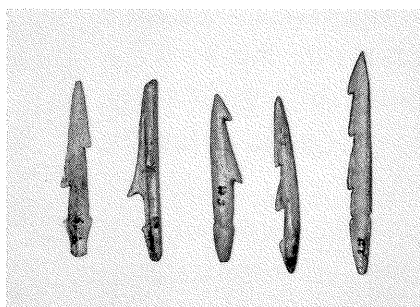
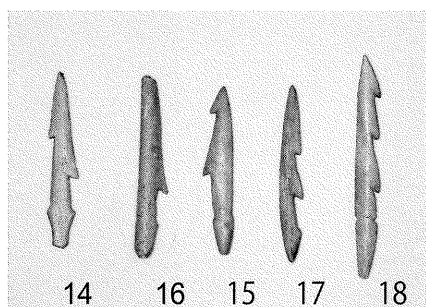
図5 釣針の模式図

存する最大長はおよそ10.1cmと3.3cmである。報告に掲載された実測図ではほぼ完形品として描かれており（図6）、発見当時はもっと残りがよかったのだろう。したがって以下の事実記載は、あくまで現状での観察所見であることをお断りしておく。

軸はイルカ肋骨製で、素材の原形をかなり残す（25）。頭部に両側から挟りを入れて糸掛けとし、結合部外側には溝が2本残っている。鉤先はイノシシ下顎犬歯製で、湾曲の内側（図の上側）に3か所、外側に2か所の挟りが残っている（26）。現状での軸と鉤先の装着状況を図上で復元したのが図6である。溝と挟りの幅はよく一致しており、組み合わせで使用するために作られたことは間違いないだろう。

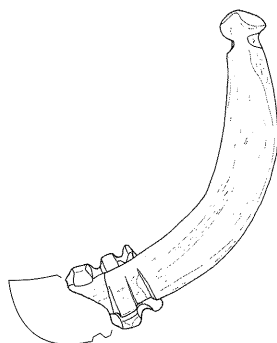
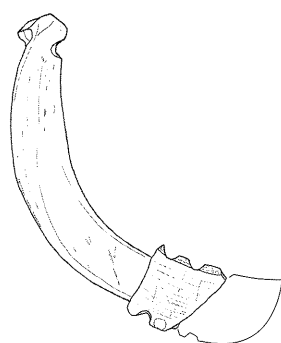
類例は少ないが、千葉県館山市鉤切洞穴からイノシシ^{なたぎり}牙製の鉤先が（和田・金子1960）、称名寺H貝塚から軸が出土している（横浜市歴史博物館2016）。分布は東京湾口部に限られるが、縄文時代後期初頭～前葉にある程度安定して存在した器種だったと考えられる。

この結合鉤の機能について、報告ではアイヌ文化のマレックのように魚鉤として使用された可能性と、組み合わせ式の釣針であった可能性を挙げている。出土状況からは釣針の可能性も想起されるが、軸の湾曲がゆるやかであり、鉤先も軸の先端部と同方向につくことから、釣針としての機能は想定しがたい。柄に装着して用



s=約2/5

写真2 称名寺貝塚出土資料 小型鈎頭・釣針・鈎状製品



1960年報告掲載の実測図



(縮尺不同)

図6 鈎状製品の組み合わせ復元図

いられる鉤であり、イルカ漁に関連した道具であったと考えておく。

おわりに

筆者は称名寺B貝塚出土の骨角製漁具の特徴として、(1) 逆鉤をもつ銚頭が発達すること、(2) 器体が湾曲する刺突具が多いこと、(3) 曲軸の単式釣針が発達すること、(4) 大型の鉤状製品の存在、の4つを挙げた(高橋 2016)。今回の報告によって、(1)・(3)・(4)の三点に関わる資料を具体的に示すことができたと考えている。(2)に関わるヤス類については、機会を改めて報告を行いたい。

本報告に関わる資料調査は、2009年・2010年および2017年に実施した。資料調査にあたっては、立正大学博物館の内田勇樹氏(当時)、吉水美紗登氏にお世話になった。また、立正大学博物館年報への掲載にあたっては、池上悟先生および時枝務先生の御高配を賜った。末筆ではあるが記して感謝したい。

横浜市歴史博物館 2016『称名寺貝塚—土器とイルカと縄文人』平成 27 年度特別展図録

吉田 格 1960『横浜市称名寺貝塚発掘調査報告』東京都武蔵野郷土館調査報告書 1

和田哲・金子浩昌ほか 1958『館山鉤切洞窟の考古学的調査』早稲田大学出版部

渡辺 誠 1971『縄文時代の漁業』雄山閣

Shinoto, Y. 1991 A revised system for the classification and coding of Hawaiian Fishhooks. *Bishop Museum Occasional Papers*. vol. 31:85-105

註 1 称名寺 A 貝塚出土資料のうち報告第八図 2 の大型銚頭基部は、武相学園所蔵資料(高橋 2017: 図 1-1)と同一である。

文 献

金子浩昌 1968「縄文時代後期における釣針製作の一方法」『物質文化』12:1-13

高橋 健 2016「称名寺貝塚の骨角製漁具」『称名寺式貝塚と称名寺式土器』シンポジウム予稿集 pp. 38-46

高橋 健 2017「武相学園所蔵の称名寺貝塚出土骨角器」『横浜市歴史博物館紀要』21: 11-16

立正大学文学部考古学研究室編 1990『吉田格コレクション 考古資料図録』立正大学学園

Ⅲ．受贈図書目録

(2017 年 4 月～2018 年 3 月)

〈青森県〉

つがる市教育委員会

- ・石神遺跡 8 つがる市遺跡調査報告書 第 8 集
- ・田小屋野貝塚 総括報告書

青森市教育委員会

- ・市内遺跡発掘調査報告書

八戸市教育委員会

- ・八戸市埋蔵文化財調査報告書 重地遺跡Ⅱ 一集合住宅建築に伴う発掘調査報告書 第 155 集
- ・八幡遺跡Ⅵ 一館公民館建築に伴う発掘調査報告書 第 158 集
- ・八戸市内遺跡発掘調査報告書 34・35

八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館

- ・研究紀要 第 6 号
- ・是川縄文館年報 第 6 号

〈宮城県〉

東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館

- ・東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館 年報 8

〈栃木県〉

大田原市なす風土記の丘湯津上資料館

- ・第 25 回特別展図録 那須の歴史をひもとくⅢ「那須の人々の心とほとけー古代から中世初期の仏教をたどるー」

〈茨城県〉

土浦市立博物館

- ・第 18 回特別展「土浦八景ーよみがえる情景へのまなざし」展示図録
- ・土浦市立博物館年報 第 27 号
- ・土浦市立博物館年報 第 29 号

取手市教育委員会

- ・ふるさと探訪

〈群馬県〉

吉岡町教育委員会

- ・吉岡町文化財調査報告書第 34 集 溝祭木戸 3 号古墳

- ・吉岡町文化財調査報告書第 35 集 茶ノ木古墳

- ・吉岡町文化財調査報告書第 36 集 七日市遺跡

高崎市観音塚考古資料館

- ・小さな古墳の物語 ぐんまの群集墳を考える

かみつけの里博物館

- ・第 25 回特別展図録 榛名山に祈る 榛名神社をめぐるモノとヒト

安中市学習の森ふるさと学習館

- ・井伊家と安中
- ・山本勘助 ー真下家所蔵文書の発見ー

〈埼玉県〉

戸田市立郷土資料館

- ・戸田市立郷土博物館 収蔵文書目録(1) 第 8 集
- ・研究紀要 第 27 号
- ・第 33 回特別展図録 人生のはじまりから終わりまで
- ・戸田市立郷土博物館要覧
- ・戸田市立郷土博物館調査報告書第 9 集 写真で見る戸田市の移り変わり

朝霞市博物館

- ・第 31 回企画展図録 小さな銅鐸を追って
- ・朝霞市博物館利用事業資料集Ⅰ
- ・朝霞市博物館調査報告書 第 8 集 朝霞市指定有形文化財 昼間家家文書史料集
- ・装飾壺からみた弥生時代の朝霞

入間市博物館

- ・入間市博物館紀要 第 12 号

寄居町教育委員会

- ・寄居町文化財調査報告 町内遺跡 19 赤浜宮前遺跡(赤浜仙元塚古墳) 第 36 集
- ・仲山遺跡(第 4 次)

埼玉県立川の博物館

- ・紀要 17 号
- ・特別展 神になったオオカミ ～秩父山地のオオカミとお犬様信仰～

美里町教育委員会

- ・美里町遺跡発掘調査報告書 長坂遺跡Ⅱー長坂聖

天塚古墳隣接地の調査－ 第 11 集

・美里町遺跡発掘調査報告書 電電神社裏古墳 第 12 集

・美里町遺跡発掘調査報告書 大仏古墳群 美里町 第 189 号古墳 第 26 集

宮代町教育委員会

・宮代町文化財調査報告書 道仏遺跡 道仏土地区画整理事業関係埋蔵文化財調査報告 第 23 集

宮代町郷土資料館

・古墳時代の拠点集落 ～道仏遺跡～

日本工業大学工業技術博物館

・工業技術博物館ニュース No. 99

・工作機械とは？

埼玉県教育委員会

・埼玉県の近代和風建築 ー埼玉県近代和風建築総合調査ー

・埋文さいたま 第 60 号

北本市教育委員会

・北本市埋蔵文化財調査報告書第 21 集デーノタメ遺跡

飯能市郷土館

・飯能市郷土館館報 郷土館のプロフィール 第 13 号

・飯能市郷土館研究紀要 第 8 号

神川町教育委員会

・中道遺跡第 27 地点 神川町埋蔵文化財調査報告 第 10 集

・南塚原 60 号墳 神川町埋蔵文化財調査報告 第 11 集

越谷市教育委員会

・越ヶ谷御殿跡発掘調査報告書 I

川越市立博物館

・下広谷自治会保有文書目録

・徳川家康と天海大僧正

・三芳野神社とその社宝

蓮田市教育委員会

・蓮田市文化財調査報告書 56 集「井沼遺跡ー第 3 調査地点ー黒浜貝塚詳細確認調査報告ー第 1 期整備工事（椿山のムラ）ー」

・2016 企画展「埼玉県の関山式土器・黒浜式土器

ー縄文時代前期前半の文化形成ー」

立正大学社会福祉研究所

・立正大学社会福祉研究所年報 第 19 号

立正大学社会福祉学部

・人間の福祉（立正大学社会福祉学部紀要）第 31 号

・社会福祉学部の 10 年

・社会福祉学部 20 周年記念 2006 年からの 10 年のあゆみ 2015

埼玉県熊谷市在家遺跡調査会

・埼玉県熊谷市在家遺跡調査会埋蔵文化財調査報告書 在家遺跡

・埼玉県熊谷市在家遺跡調査会埋蔵文化財調査報告書 第 2 集 前中西遺跡 X

・埼玉県熊谷市在家遺跡調査会埋蔵文化財調査報告書 第 3 集 前中西遺跡 XI

・埼玉県熊谷市在家遺跡調査会埋蔵文化財調査報告書 第 25 集 諏訪木遺跡 III

上里町郷土資料館

・平成 26 年度 図書館・郷土資料館要覧

・平成 27 年度 図書館・郷土資料館要覧

・平成 28 年度 図書館・郷土資料館要覧

・日月遺跡 発掘調査報告書 第 13 集

・第一次田中西遺跡 発掘調査報告書 第 14 集

・臺第 2 地点遺跡 発掘調査報告書

・地神塚遺跡 発掘調査報告書

・研究紀要 創刊号～第 15 号

上里町教育委員会

・第 2 次田中西遺跡発掘調査報告書 第 15 集

・町内遺跡群 I 遺跡発掘調査報告書 第 16 集

・研究紀要 第 16 号

埼玉県立嵐山史跡の博物館

・埼玉県立嵐山史跡の博物館 館報 第 36 号

加須市教育委員会

・加須市埋蔵文化財調査報告書 騎西城武家屋敷跡 第 9 集

・加須市埋蔵文化財調査報告書 騎西城武家屋敷跡 第 10 集

埼玉県立自然の博物館

・現代有用植物展図録～くらしと植物のステキな関係～

- ・埼玉県立自然の博物館研究報告 第 11 号

東松山市教育委員会

- ・考古学リーダー 26 市制 60 周年記念シンポジウム 三角縁神獣鏡と 3 ～ 4 世紀の東松山

埼玉県平和資料館

- ・埼玉平和資料館「かるたの中の戦争」

毛呂山町教育委員会

- ・毛呂山町埋蔵文化財調査報告第 31 集 毛呂山町 町内遺跡発掘調査報告書 (9)

毛呂山町歴史民族資料館

- ・毛呂山町史料集 第 10 集

日高市教育委員会

- ・日高市埋蔵文化財調査報告書 第 36 集
- ・日高市埋蔵文化財調査報告書 第 37 集

埼玉県立歴史と民俗の博物館

- ・平成 29 年度要覧
- ・特別展「明治天皇と氷川神社一行幸の軌跡」

さいたま市立博物館

- ・平成 28 年度 さいたま市博物館年報
- ・第 41 回特別展氷川神社一大いなる宮居の歴史ー
- ・さいたま 近代教育の幕開け

桶川市教育委員会

- ・東 I 遺跡 第 1 次発掘調査報告書
- ・平成 27 年度 桶川市内遺跡発掘調査報告書
- ・東台 I 遺跡 第 2 次発掘調査報告書
- ・堀の内遺跡 第 4 次発掘調査報告書

さいたま文学館

- ・企画展 さいたまの妖怪
- ・埼玉の文学散歩
- ・館報 第 20 号

白岡市教育委員会

- ・白岡市埋蔵文化財調査報告書第 26 集

埼玉県立さきたま史跡の博物館

- ・館報 No.12
- ・平成 29 年度企画展展示図録 「埼玉の古墳 2ー秩父・児玉・大里ー」
- ・埼玉県立さきたま史跡の博物館紀要 第 10 号

行田市郷土博物館

- ・第 27 回テーマ展「古代への扉を開く～行田発掘物語～」

- ・行田市郷土博物館報 第 19 号

- ・行田市郷土博物館収蔵資料目録 中村家古文書目録 第 19 号

川口市立科学館

- ・年報 平成 28 年度

久喜市立郷土資料館

- ・栗橋関所の番士でござるー島田家文書を紐解くー

ふじみ野市立大井郷土資料館

- ・幕末の川越班とふじみ野～激動する村々と船運・街道～

草加市立歴史民俗資料館

- ・日光道中（街道）草加宿と参勤交代

深谷市教育委員会

- ・埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書 庁鼻和城跡（第 6 次） 第 151 集
- ・埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書 貉山古墳群 5 号墳（第 4 次）第 152 集
- ・埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書 下郷遺跡 XI 第 153 集
- ・埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書 深谷市内遺跡 X X III 第 154 集
- ・埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書 外谷田遺跡（第 2 次） 第 156 集
- ・埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書 熊野遺跡（第 178 次）第 157 集
- ・埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書 下郷遺跡 XII 第 155 集
- ・埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書 遠南遺跡（第 2 次） 第 158 集
- ・埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書 深谷城跡（第 19 次） 第 159 集
- ・埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書 下手計西浦遺跡（第 2 次）第 160 集

埼玉県鶴ヶ島市遺跡調査会

- ・鶴ヶ島市埋蔵文化財調査報告書 仲道柴山遺跡 第 16・18・19 次 発掘調査報告書 第 80 集

鶴ヶ島市教育委員会

- ・鶴ヶ島市内遺跡発掘調査報告書 IX

富士見市立難波田城資料館

- ・里神楽と面師

〈千葉県〉

市立市川考古博物館

- ・市立市川考古博物館 館報 第 44 号

千葉県立中央博物館

- ・研究報告 人文科学 13 巻 2 号

千葉県立関宿城博物館

- ・平成 29 年度企画展図録 鯛は弱いが役に立つー肥料の大様 千鯛 千鯛ー
- ・研究報告 第 22 号

旭市教育委員会

- ・大原幽学記念館報告 第四号

〈東京都〉

玉川大学教育博物館

- ・玉川大学教育博物館 紀要 第 14 号
- ・御嶽堂遺跡 発掘調査報告書
- ・玉川大学教育博物館 館報
- ・博物館ニュース「SHU」No. 49

国分寺市教育委員会

- ・古代道路を掘るー東山道武蔵路の調査成果と保存活用ー
- ・国分寺市史料目録 4・国分寺市史料集 5 柳屋小柳家文書
- ・国分寺市有形文化財調査報告書 ー平成 26・27 年度ー

東京家政学院

- ・東京家政学院生活文化博物館年報 第 24 号

東京家政学院生活文化博物館

- ・きもの、いとをかー收藏品ベストコレクションー

帝京大学総合博物館

- ・医療のための薬学にはてしない未来をー帝京大学薬学部をあゆみと研究最前線ー

八王子市市史編さん室

- ・新八王子市史編さんの記録
- ・八王子彩りの古代『新八王子市史』原始・古代副読本

東和ランドテック株式会社 株式会社四門

- ・東京都三鷹市 市立第 5 中学校遺跡VI

三鷹市スポーツと文化部 生涯学習課分室

- ・三鷹市埋蔵文化財調査報告書 第 43 集 原遺跡

公益財団法人渋沢栄一記念財団 渋沢資料館

- ・渋沢栄一渡仏 150 年 渋沢栄一パリ万国博覧会へ行く

- ・青淵 第 818 号 5 月号
- ・青淵 第 819 号 6 月号
- ・青淵 第 820 号 7 月号
- ・青淵 第 821 号 8 月号
- ・青淵 第 822 号 9 月号
- ・青淵 第 823 号 10 月号
- ・青淵 第 824 号 11 月号
- ・青淵 第 825 号 12 月号
- ・青淵 第 826 号 1 月号
- ・青淵 第 827 号 2 月号
- ・青淵 第 828 号 3 月号
- ・青淵 第 829 号 4 月号

- ・渋沢研究 第 30 号

- ・渋沢資料館年報ー 2013 年度ー

- ・渋沢資料館年報ー 2014 年度ー

- ・渋沢史企画展 渋沢栄一と王子製紙株式会社 関連講演録

- ・渋沢史企画展 澁澤倉庫株式会社と渋沢栄一 関連講演録

明治大学博物館

- ・明治大学博物館研究報告 第 22 号

実践女子大学香雪記念資料館

- ・実践女子大学香雪記念資料館館報 第 14 号

有限会社沙羅書房

- ・古書の道 沙羅書房 五十年誌

公益財団法人 日本博物館協会

- ・博物館研究 Vol. 52 No. 5 通巻 587 号
- ・博物館研究 Vol. 52 No. 6 通巻 588 号
- ・博物館研究 Vol. 52 No. 7 通巻 589 号
- ・博物館研究 Vol. 52 No. 8 通巻 590 号
- ・博物館研究 Vol. 52 No. 9 通巻 591 号
- ・博物館研究 Vol. 52 No. 10 通巻 592 号
- ・博物館研究 Vol. 52 No. 11 通巻 593 号
- ・博物館研究 Vol. 52 No. 12 通巻 594 号
- ・博物館研究 Vol. 53 No. 1 通巻 595 号
- ・博物館研究 Vol. 53 No. 2 通巻 596 号
- ・博物館研究 Vol. 52 No. 12 通巻 597 号

・「博物館登録制度の在り方に関する調査研究」報告書

・日本の博物館調査報告書

駒澤大学禅文化歴史博物館

・企画展「黄檗の伝来と江戸の禅宗」

一般財団法人 全国科学博物館振興財団

・milsil No.3 Vol.10

・milsil No.4 Vol.10

・milsil No.5 Vol.10

・milsil No.6 Vol.10

・milsil No.1 Vol.11

・milsil No.2 Vol.11

立正大学経営学会

・立正大学経営論集

新西郊文化研究会

・新西郊文化

中央区教育委員会

・新川二丁目遺跡Ⅱ

公益財団法人 日本文化財保護協会

・紀要 第1号

カトーレック株式会社

・パローチスターンの彩文土器と土偶

公益財団法人 大田区文化振興協会

・えがく かなでる ひびく

「文化遺産の世界」編集部

・文化遺産の世界 Vol.25～29

お札と切手の博物館

・博物館ニュース

大田区立郷土博物館

・堀越保二 野鳥と自然をみつめた日本画家

國學院大學博物館

・國學院大學博物館事業報告書

〈神奈川県〉

大磯町郷土資料館

・吉田 茂 ―その生涯と大磯―

・大磯別邸 城山荘 ―三井高棟が遺したもの―

神奈川県教育委員会

・平成28年度かながわの遺跡展・巡回展 かながわの最初の現代人 ―旧石器時代のヒトと社会―

女子美術大学美術館

・女子美術大学美術館年報 第14号

・展覧会図録「女子美の新星」展

・展覧会図録「田原桂一 in joshibi 《光合成》」展

・「学术交流協定校ブレラ国立美術学院・女子美術大学交流作品」展

三浦市教育委員会

・三浦市埋蔵文化財調査報告書第31集 市内遺跡発掘調査

〈新潟県〉

長岡市立科学博物館

・長岡市立科学博物館館報（NKH） 第101号

〈山梨県〉

山梨県立考古博物館

・第35回特別展「ひつぎのヒミツ～棺から読み解く古墳時代」

〈静岡県〉

静岡市立登呂博物館

・東海土器五十三次展

〈愛知県〉

南山大学人類学博物館

・南山大学人類学博物館紀要 第36号

〈滋賀県〉

高島市教育委員会

・高島市内調査報告書 ―平成28年度―

・高島市文化財調査報告書 第29集

・高島市文化財調査報告書 第30集

〈大阪府〉

大阪府立弥生文化博物館

・海に生きた人びと

茨木市文化財資料館

・銅鐸をつくった人々 ―東奈良遺跡の工人集団―

かんさい・大学ミュージアム連携実行委員会

- ・大学の扉を開く 事業実施報告書

阪南市教育委員会

- ・阪南市の歴史文化遺産

〈京都府〉

同志社大学歴史資料館

- ・同志社大学歴史資料館調査研究報告書『木津川・淀川流域における弥生～墳墓の動態に関する研究』
- ・同志社大学歴史資料館 館報 第20号

龍谷大学龍谷ミュージアム

- ・第二十五代専如門二主伝灯奉告法要記念特別展「浄土真宗と本願寺の名宝Ⅱ ー守り伝える美とおしえー」
- ・特別展地獄絵ワンダーランド

〈兵庫県〉

関西学院大学博物館

- ・日中のかけはし ー愛新覚羅溥儀家の軌跡ー
- ・装いの上海モダン

〈鳥取県〉

鳥取県教育委員会

- ・一般国道（鳥取西道路）の改築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 X X VII 鳥取県鳥取市気高町 下坂本清合遺跡Ⅱ
- ・金沢坂津口遺跡
- ・松原田中遺跡Ⅱ
- ・高住牛輪谷遺跡Ⅱ
- ・一般国道（鳥取西道路）の改築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書「大桝遺跡Ⅲ」
- ・一般国道（鳥取西道路）の改築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書「大桝遺跡Ⅳ」
- ・一般国道9号（鳥取西道路）の改築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書「松原田中遺跡Ⅲ」
- ・一般国道313号（倉吉関金道路）の道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ「山ノ下遺跡・平ノ前遺跡」

〈山口県〉

山口大学埋蔵文化財資料館

- ・山口大学構内遺跡調査研究年報 X X
- ・見島ジーコンボ古墳群 第123号墳（再）・西部域出土資料調査報告書
- ・広報誌 てらこや埋文 第27号
- ・平成28年度山口県大学 ML 連携事業報告

〈高知県〉

高知県立歴史民俗資料館

- ・高知県立歴史民俗資料館年報

〈福岡県〉

筑紫野市教育委員会

- ・旧九州鉄道城山三連橋梁（筑紫野市文化財調査報告書111集）
- ・堀池遺跡第3・5・6次発掘調査（筑紫野市文化財調査報告書112集）
- ・原口遺跡第2次・第3次発掘調査（筑紫野市文化財調査報告書第113集）

西南学院大学博物館

- ・島原半島の信仰と歴史 ー揆とその後の松平氏治世
- ・西南学院大学博物館 主要所蔵資料目録
- ・西南学院大学博物館研究紀要
- ・西南学院大学博物館年報 第9号
- ・研究叢書 キリスト教の祈りと芸術ー装飾写本から聖画像までー
- ・博物館ニュース vol.32・33

九州産業大学美術館

- ・九州産業大学美術館年度報告書

〈熊本県〉

熊本大学工学部

- ・熊本大学工学部研究資料図録

熊本大学五高記念館

- ・熊本大学五高記念館館報

〈鹿児島県〉

鹿児島大学総合研究博物館

- ・鹿児島大学総合研究博物館年報 No.15

立正大学博物館年報 16

(平成 29 (2017) 年度)

平成 30 (2018) 年 4 月 1 日 発行

編集・発行 立正大学博物館

〒 360-0194 埼玉県熊谷市万吉 1700

TEL. 048 - 536 - 6150 FAX. 048 - 536 - 6170

E - mail : museum@ris.ac.jp

URL <http://www.ris.ac.jp/museum/>

印刷・製本；望月印刷株式会社